

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。
普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

KIDS SMILE LABO JOURNAL



保育園から小学校へ、 育ちをつなぐ

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 誉



▶note

先日、卒園児が通う小学校へ伺い、授業参観と先生方との懇談会に参加させていただきました。

卒園児が小学校に入学して約1か月。教室では、新しい友だちや先生との生活にも少しずつ慣れ、一生懸命学び、学校生活を送る姿を見ることができました。

授業では、お分間集中して学ぶだけでなく、途中で気持ちを切り替える時間や短いゲームを取り入れるなど、子どもたちが安心して学べるよう、先生方がさまざまな工夫をされていました。小学校でも、一人ひとりの姿に寄り添いながら環境を整えてくださっていることを知り、大変心強く感じました。保育園と小学校では、生活のリズムや学び方が大きく変わります。保育園では一番年上だった子どもたちも、小学校では一番年下となり、新しい環境の中で多くのことに挑戦していきます。

それでも子どもたちは、保育園で育んできた「自分で考える力」「やってみようとする気持ち」「自分は大丈夫と思える気持ち」を土台に、一歩ずつ成長していました。主体性や自己肯定感、乳幼児期だけのものではなく、その後の学びや人との関わりを支える大切な力なのだと改めて感じました。

子どもの育ちは、保育園で完結するものではありません。園での経験が小学校での学びにつながり、その先の人生へと続いていきます。これからも園と小学校が互いに連携しながら、一人ひとりの育ちを丁寧につないでいきたいと思っています。

最後に、小学校の先生方から「入学までに身に付いていると、子ども自身が安心して学校生活を始めるやすいこと」として、お話しいただいた内容をご紹介します。

・お箸を使って食事ができること

・自分の名前を読めること

もちろん、小学校によって考え方や入学前に期待する内容は異なりますので、必ずできなければならないというものではありません。しかし、どちらも学力ではなく、子どもが毎日の学校生活を安心して送るための生活の土台となる力です。ご家庭でも、お子さまのペースを大切にしながら、日々の生活の中で無理なく取り組んでいただければと思います。園でも、お箸を使う経験や自分の名前に親しむ機会を大切にしながら、ご家庭とともに子どもたちの育ちを支えてまいります。子どもたちが安心して自分らしい一歩を踏み出せるよう、これからも一緒に成長を見守っていききたいと思います。



kidssmilelabo.com

@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO



Over the past month, each class has been bustling with activity.
Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection.
We invite you to enjoy reading about their journey.
This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

Minamo Ozora Daichi

text by Aiko Matsusaki



大収穫のじゃがいも掘り

先日のじゃがいも掘り体験のきっかけは、昨年の栗拾い活動の帰り道に出会った農家さんに「じゃがいもを植えているから、収穫の頃においで」と、声をかけていただいていたところから始まりました。

今回、改めてご連絡をいただき、じゃがいも掘りをさせていただくことになったみなそらだいちさん。当日は生憎の雨の中でしたが、「たくさん掘れるかな？」とワクワクしながらじゃがいも掘りに出かけました。

じゃがいもの葉っぱや茎は思ったよりも固く、力いっぱい引っ張って後ろに転びそうになる子もいるほど！土を掘り進めると、ゴロゴロとしたじゃがいもが顔を覗かせました。「あった！」「ここにじゃがいも見えたよー！」「こんなに大きいのあったー！見てみて！」と、あちらこちらから嬉しそうな歓声が聞こえてきました。中には「虫がいたら怖いな…」「汚れるのが嫌だな…」と不安な様子の子もいました。それでも、友だちの姿や保育者との関わりの中で、じゃがいもを見つけると夢中になって掘り進めていく姿が見られました。

収穫したじゃがいもを「1、2、3…」と嬉しそうに数え、自分のリュックに詰め込みました。「重たいけれど大丈夫かな？」という大人の心配をよそに、みんな誇らしげにリュックを背負って帰ってきました。戻ってから、みんなでどれだけ掘れたのか数えてみると、なんと合計 277 個の大収穫！「このたくさんさんのじゃがいも、どうする？」と話し合うと、真っ先に「調理して食べたい！」という声があがりました。何を作るかみんなで意見を出し合った結果、今回は「ポテトチップス」と「肉じゃが」を作ることに決めました。



力を合わせた調理の日



いよいよ待ちに待った調理の日です。

5 歳児のだいちチームは、スライサーを使ってポテトチップス作りに挑戦。刃先に気をつけながら、慎重にゆっくりとスライサーを動かします。じゃがいもが小さくなるギリギリまで集中してスライスする姿が見られました。油で揚げる工程でも、真剣そのもの。パチパチと油がはねる様子に興味津々で、じっと見つめていました。

3.4 歳児のおおそらみなもチームは、肉じゃが作り。たくさんある中から自分で「これ！」と選んだじゃがいもを切り、その他の人参や玉ねぎなどの具材もみんなで協力して切りました。手を「猫の手」にすることをしっかり意識しながら、ゆっくり切る子、大胆に「ストンッ！」と切る子など様々でした。切った具材は鍋に入れて、順番に炒めました。味付けの進め方はチームごとに違い、「味見をしながら少しずつ調味料を入れるチーム」と、「思い切りよく一気に入れるチーム」に分かれました。「うん！これくらいでちょうどいい！」「もうちょっと入れた方がいいかな？」と、子どもたち同士で楽しそうに相談しながら味を調べていきました。



みんなで「いただきます！」

完成したポテトチップスと肉じゃがは、給食の時間にみんなで一緒にいただきました。「味比べてみよう！」「どっちも美味しいから、絶対におかわりする！」「ポテトチップスのお味はどう？」「自分たちで作ったから美味しいね！」部屋の中は、美味しさに感動する声と笑顔でいっぱいになり、楽しい会話がいつまでも止まりませんでした。まだまだたくさんある、みんなで掘ったじゃがいも。次はどんな活動や美味しい料理に広がっていくか、とても楽しみです！



Nobana

初めての **アート** の日

のぼなになって初めて迎えた「アートの日」。部屋を準備していると「何やるの?」と不思議そうに覗き込む子どもたちの姿がありました。そして「今日は楽しい場所を作ったよ」と伝えると、行進しながらワクワクした表情で向かっていきました。

案内したのは透明のシートをぐるりと張り巡らせた部屋。あえて使い方を伝えずに入ってみると、子どもたちは自然と筆やローラーを手に取り、思い思いに色を滑らせ始めました。ローラーを走らせながら「ダンパーが通りま

す」と道を作る子、黒い道のまわりに赤い絵の具を点々とつけながら花畑を作る子、保育者が赤い絵の具で「火事です」と言う青で「消火しまーす!」と駆けつける子、椅子の周りのシートに色を塗り「ハート屋さんです」とブ

レセントしてくれる子、好きなピンクを作って「ピンクの歌」を歌いながら板を一面ピンクに塗りあげる子、大人の顔にシート越しに色を乗せて修理「ここを直す子」。透明なシートに絵を描くのではなく色をのせていく。それだけでそれぞれの世界がどんどん広がっていきました。

また、友達が色をのせたシートを見上げて「お手紙だね」とつぶやき、「ここには、いっしょにあそぼ。って書いてあるよ」と、自分の世界と友達の世界をつなげていく姿もありました。

初めてのアートの日は、子どもたちの想像力が重なり合い、ひとつの空間がたくさん物語で満ちていく時間でした。これからも子どもたちのつぶやきや表現を大切に、子どもたちの想像力を楽しみたいと思います。

capt by Tetsuo Sugawara



Soyokaze

見て・触れて・味わって

ある日、調理さんが葉っぱのついたにんじんを持ってきてくれました。子どもたちは葉っぱを触ったり、匂いを確かめたり興味津々!そして、「うんとこしょ!どっこいしょ!」と葉っぱを引っ張り、お手伝いをしてくれました。後日、にんじんが給食に登場すると、「お手伝いしたにんじんかな?」と嬉しそうなお手伝いをきっかけに野菜との距離がぐっと縮まったそよかせさん。

野菜スタンプで遊んだ際には、野菜の断面を見て「おほしさま!」「あなのあいたれんこんさん!」と目を輝かせる子どもたち。夢中になってべったん!べったん!とスタンプを楽しんでいました。その日の給食のカレーのトッピングとして野菜が登場すると、「あ!べったん!」とすぐに気づき、遊びの中で親しんだ野菜だからこそ、「食べてみようかな」と自ら手を伸ばす姿が見られました。友だちと顔を合わせた「あーむ!」と一口、みんなに見て欲しくて「みてー!」と嬉しそうに大きな口をあけて見せてくれるかわいさ、ピカピカになったお皿を「びっかりん!」と誇らしげに見せてくれる子。友だちのそんな姿を見て「わー!すこい!」と手をぱちぱち拍手する子どもたちの表情は、優しく、まっすぐで、お互いを認め合う気持ちの育ちを感じました。今後も見て・触れて・味わって感じる体験を大切にしながら、食べることに興味や楽しさを育んでいきたいと思います。

capt by Tetsuo Sugawara



仲間とともに、育ち合う時間

今年度に入り、4月にはextmanによるチームビルディング研修、5月には外部講師によるリズム研修、そして先日はちなちゃんによるアート研修が行われました。仲間とともに学び、感じ、対話する園内研修は、ラボの名物のひとつとなっています。

研修のたびに感じるのは、「ラボには本当に素敵な人たちが集まっているな」ということ。一人ひとりが紡ぐ言葉や、柔らかな感性にたくさん刺激をもらい、その学びはいつも自分自身の心にも深く残っていきます。

先日行われたちなちゃんのアート研修では、「自分が相手にしてあげられることってなんだろう」という問いをテーマにしたワークがありました。

4月のextmanのときに表現をした「自分になりたい姿」の作品に、今度は2チームに分かれたチームのみんなが表現をそっと加えていく課題です。

そして、そのあとには「なぜそれを選んだのか」「どんな想いを込めたのか」を言葉にして伝え合います。

相手のことを思い浮かべながら、自分にできることを考える時間。そして、その想いを受け取り、お互いの気持ちに耳を傾ける時間は、自然と心の距離を近づけてくれるような、とても温かなひとときとなりました。

振り返りでは、こんな言葉が生まれました。

「それぞれの心が形になった。そこにはいろいろな心がある。それが本当にラボらしい。大人も子どもも一緒。みんな違って、みんな良い。」

「気持ちを表現するのは苦手だけど、やっぱり言葉って大切だなと感じた。」

「全体を見た時、明るい色で場が彩られて、楽しそう。子どもたちにも楽しいが伝わるといいな。」

「自分のことをこんな風に想ってくれてるんだって、ただただ嬉しかった。」

どの言葉にも、その人らしい視点や優しさが詰まっていて、一人ひとりの違いを大切にす

保育園という組織は、日々チームで子どもたちの育ちを支えています。だからこそ今回のアートワークは、お互いの考えや価値観に触れ、仲間をより深く知ることができた、かけがえのない時間となりました。

さて、こんなラボの名物ともなりつつある、園内研修。始まる時は「今日は何をするんだろうな〜ワクワク!」と始まるのですが、研修の中で、笑い、涙、かと思えば沈黙の時間もあつたり。独り言を話している人もいたり。終わる頃には「何歳か老けたかな?」と思うほど、ぐっと疲れが込み上げます。それだけ全身で自己と他者と向き合い、心を解き放す時間となっています。こうした経験を重ねることで、子どもたちにもより丁寧に寄り添えるチームでありたいと思っています。

capt by Tetsuo Sugawara

